

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175800333		
法人名	株式会社 日東総業		
事業所名	グループホーム なかま		
所在地	南幌町栄町1丁目1番6号		
自己評価作成日	平成23年7月31日	評価結果市町村受理日	平成23年9月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL <http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0175800333&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成23年8月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1.家庭的な場に配慮しながら施設内の清掃を利用者の方々と共に、日々の生活の中で消毒を習慣化し衛生管理の徹底に努め感染症予防を行っている。
 2.畑が裏にあり、野菜を裏玄関から眺めたり、気軽に収穫に行けることで利用者の方々を楽しませている。また、新鮮な野菜を利用しバランスの良い食事を提供している。
 3.職員同士がお互いの得意としているところを尊重しあいチームワークを築き上げ、それが利用者の方々への気配りにつながりサービス向上に努めている。
 4.立地条件に恵まれ、近隣に消防署や交番がある。また、商店街にあることでお買い物に徒歩や車椅子で気軽に行ける距離にあり、店内で知人に会う機会が多い。散歩中にもご近所の方が声をかけてくださる。地域とのつながりを大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、町の中心部に位置しており、近隣に商店、病院、老人保健施設、消防署、交番等があり、散歩や買い物で知人、友人と出会うことも多い。事業所の周りには小さな畑があり、職員と利用者で育て収穫した新鮮な野菜が食卓に上り、楽しい食事風景となっている。管理者、職員、利用者間のコミュニケーションもよく、地域との交流も多い。利用者がゆったりと落ち着いた生活をしており、家庭的で穏やかな日常を送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったりと楽しく 自由にありのままに 馴染みの地域の中で 家族の絆を大切に 心を通わせ共に支え合う生活」をケア理念とし、地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性を重視した理念を大切にしている。	管理者、職員は地域密着型サービスの意義を踏まえて、事業所の基本理念を作り上げている。理念を小さなカードに記して携帯し、職員間で共有し、日々の生活の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や買い物等に出かけ、地域の人たちと挨拶を交わしたり話をしている。また、町内会と商工会に加入している。花壇整備の参加、文化展の見学など、地域の方との交流を大切にしている。	事業所は町内会、商工会に加入し、地域との交流を密にしている。利用者も地域の顔見知りや友人と散歩などで挨拶を交わし、話しをしている。神社の行事には事業所が玉ぐしを捧げたり、子供神輿が事業所に立ち寄り、利用者も喜んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は事業所での実践内容を踏まえて、地域の方の相談を受けたり、見学をしていただいている。また、中学生の職業体験の受け入れを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り上げられた検討事項や助案事項、活動状況の報告について積極的なご意見とご協力をいただき、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月毎に開催しており、事業所の活動状況についての意見や協力を得ている。会議には、町内住民の出席もあり、避難訓練について協議し、訓練への参加に至っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新の機会等に市町村担当者へ利用者の暮らしぶり等を伝え、連携を深めている。ご家族の方の悩み等については、市町村に相談し助言をいただき、ご相談にいらした方についても情報交換し、解決できるように取り組んでいる。	事業者は町の担当職員や地域包括支援センターとの連携を深めており、地域の高齢者福祉についても情報交換を密にしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止推進委員研修に参加し、ミーティング等で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者が外出しそうな様子を察知したら、一緒についていく等、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。	身体拘束をしないケアの理解と実践のため内部学習会を開催しており、具体的な身体拘束について改めて確認を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止研修会に管理者や職員が参加し、ミーティング等を通して、虐待等がないか確認し、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用されている方はいないが、権利擁護等について学習会で理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明をしている。特に利用料金や起こりうるリスク、重度化等についての対応方針や通院介助の実際等について詳しく説明し同意を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。来所時には管理者や職員に意見や不満等を話すことができるような雰囲気作り心掛けています。直接話しぶりがあるようであれば市町村の窓口を利用して下さるよう説明をしています。	管理者、職員は、家族来訪時に意見や要望が話しやすいような雰囲気づくりを心がけている。また、2ヶ月毎に「なかま」通信を発行し、利用者の様子を写真入りで伝えている。事業所には意見箱も設置している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや毎日の申し送りや日々の業務の中で意見交換をしている。また、日頃からコミュニケーションを図るように心掛けている。	代表者、管理者は毎月のミーティングや日々の申し送りの中で、運営に関する職員の意見や提案が表出しやすいよう、日頃からコミュニケーションを大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は現場に来ており、利用者や過ごしたり、職員にねぎらいの言葉かけをしている。また、職員のストレスの要因に気を配り、リフレッシュできるように休みの希望を取り、職員関係を把握し円滑になるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のミーティングで学習会を行っている。また、外部研修の情報を収集し、職員が希望された研修の受講や職員の段階に応じた受講できるよう調整をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に加入している。また、町主催の介護者のつどいに参加し町内の他事業所の方との交流の場で情報交換を行っている。近隣の同業者の見学の受け入れ等で、日頃の悩みや課題を共有しサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった時は、ご本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、管理者や職員がご本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の苦労や今までのサービス利用状況等の経緯について伺い、ご家族の不安や希望を傾聴し見学をしていただいた。ご家庭を訪問させていただいたときにも不安や希望に対応できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人やご家族の思い、状況等を伺い、支援の提案や相談を繰り返すなかで信頼関係を築きながら必要なサービスにつなげられるように町内の居宅支援事業所や市町村との情報交換ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びなどを知ることに努め、暮らしの中で分かち合い、共に支えあえる関係づくりに留意している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、ご本人と一緒に支えるためにご家族と同じような思いで支援していることを伝える。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの知人や友人等から電話や訪問していただいたり、同好会に参加し交流できるように働きかけている。	事業所では、利用者の利用開始前の知人などの訪問や電話等での交流を支援し、馴染みの関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、相談に乗ったり、みんなで楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面づくりをするなど、利用者同士の関係がうまくいように職員が調整役となって支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族が来訪されたり、ご家族からの電話があり相談にのっている。施設外で会ったときには声を掛け合い関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声をかけ、把握に努めている。また、意思疎通が困難な方の行動や表情等を観察したり、ご家族や関係者から情報を得て対応している。	職員は、利用者との日常の関わりの中で、思いや意向の把握に努め、家族や関係者からの情報も大切にしている。また、言葉だけではなく、表情や様子などからも思いを推測して、利用者の意に沿うよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴や大切にしているご家族や友人のことを把握することでケアに活かすことを継続的にやっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活・心理面の視点や、できないことよりできることに注目し、その人全体の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め職員全員でミーティングや意見交換を行っている。	カンファレンスで利用者一人ひとりの課題とケアのあり方について検討し、利用者、家族の思いを反映させて、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事・水分量、排泄等身体的状況および日々の暮らしのようすやご本人の言葉等を記録している。いつでもすべての職員が確認できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。また、ご家族の意向に配慮しながら面会時に食事やおやつ提供の声かけし居間で一緒に過ごしていただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通して、また、ご家族の協力を得て、地域との交流や民謡等のボランティアの紹介をしていただき、楽しむことができるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の意向のかかりつけ医となっている。また、通院介助を行い、訪問診療に来ていただいている。	利用開始時に、事業所の受診支援体制を説明し、訪問診療及び通院介助も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者は看護職員を兼ね、日常の健康管理をしている。状態に応じてかかりつけの看護職員等に相談し適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご本人の健康状態や支援内容に関する情報を医療機関に提供し、数日毎に職員が見舞いに行きようすを伺っている。また、ご家族とも情報交換を行い、病棟看護職員や相談員と連携し退院支援をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族とは、入居のときに終末期についての要望を確認し、事業所のできることを十分に説明をしている。状態の変化に応じてご家族の要望を再確認している。	利用開始時に終末期や重度化した場合の事業所の指針を示し、状態の変化に応じて家族や本人の要望を確認しながら支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習会を年に1回消防署の協力を得て出向いいただき、利用者の方が見守る中で受講しダミー人形で実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と地域住民の方の協力を得て、年に2回利用者の方とともに夜間や昼間を想定した避難訓練を行っている。また、自動火災報知設備が鳴ると火災通報装置に連動し自動的に消防署の他に4カ所に電話連絡される。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要なときも、まずはご本人の気持ちを大切に考えてさりげないケアを心掛けたり、自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、さり気ないケアや声かけを行っている。また、利用者の能力に応じて、自己決定しやすいような対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせての声かけを心がけている。意思表示が困難な方には、表情を読み取ったり、些細なことでもご本人が決める場面をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、それに合わせた対応を心がけている。その日のコンディション、ようすをみながら、ご本人の希望を尋ねて過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的にご本人に服を選んでいただいている。自己決定がしにくい方には一緒に考え、気持ちに沿った支援を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューは天候や利用者の好みを取り入れながら決めている。また、利用者と一緒に収穫してきた野菜を使って調理をしている。	メニューは、利用者の好みや栄養バランスを考えながら、日々工夫している。利用者と一緒に事業所で育て収穫した野菜を調理し、楽しみながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の摂取量を把握している。個別に栄養補助食品を出してもらっている方もいるが、好まれる食物や食べやすい食物でいろいろ工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア研修会を年に1回歯科医等に出向いていただき利用者の方とともに受講している。状態に応じて定期的に訪問や通院のクリーニングの支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し、利用者のようにすから敏感に察知し、身体機能に応じて手を差し伸べたり、歩行介助をしている。トイレでの排泄を大切にしている。	職員は、排泄チェックシートを活用し、自尊心に配慮しながら、利用者の様子を察知し、状況に応じて介助やトイレへの誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操や水分補給の徹底を行い、便秘対策に取り組んでいる。独歩できない方には腹部マッサージを行い、体調を伺いながら介助歩行を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、その日の体調に配慮しながら、希望やタイミングに合わせて週3回または週5～6回は入浴を楽しめるように支援している。	入浴は週3回以上利用者の希望やタイミングに合わせて支援し、気持ちよく入浴を楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を勧め、生活リズムを整えるよう努めている。また、一人ひとりの体調や表情等に配慮しながら、ゆっくり休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局から出されている内容と効果の記載されている服薬カードは個人ファイルに保管し、全職員にわかるように徹底している。症状の変化に応じて、受診または訪問診療のときに医師の指示をいただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の体調や天候に配慮しながら、日光浴をしたり、散歩やお買い物に外出できるように支援している。また、お盆等の自宅への外出の希望時にはご家族にご協力していただけるように働きかけている。	日光浴、散歩、買い物など日常的に戸外に出ることを心がけている。買い物や散歩などで、利用者の知人・友人に出会って話しをすることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力を得て小額のお金を持っている方もいる。お買い物のお金はご本人の希望を確認しながら支払いをしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から宅配便等が届いたときにはご本人に手渡しお礼の手紙や電話等の支援をしている。また、ご本人の希望で携帯電話を所持され自由に電話をされている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暮らしの場を感じさせる台所、安心して入浴できる脱衣室や居間の配置についても居心地がよいように工夫をしている。居間等には季節を感じるように花を飾ったり、節句にちなんだ飾りを一緒に手作りしたものを飾っている。	事業所は既存の建物を利用し、利用者の暮らしに適した家庭的な配置に改修している。居間には、手づくりの作品や季節の花などを飾り、居心地のよい家庭的な共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に気の合った者同士で、また一人になれたり自由に過ごせるように居間や食堂だけでなく、廊下にベンチを設置し工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される方の精神的な負担を軽減できるようご本人の使い慣れた物を持ってきていただき、ご本人やご家族と相談しながらタンスやテレビ等の配置を決めている。ご本人やご家族の写真等を飾っている。	居室には、利用者の使い慣れたものを持ち込み、絵や家族の写真などを飾るなど、その人らしい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、手すりの増設をしている。一人ひとりのわかる力を見極め、必要な目印をつけたり、物の配置に配慮している。		